

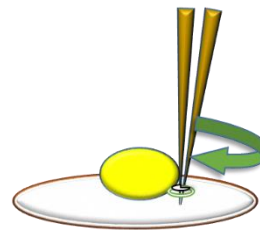
Web 版

地協ニュース

ときたまご

令和5年8月9日（水）号

山形市教育委員会 社会教育青少年課発行



山形市放課後子ども教室「ベニっこアフタースクール」開催！

放課後子ども教室とは「放課後や週末等において、学校の余裕教室等を活用して全ての子供たちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する放課後等支援活動」のことで、地域学校協働活動として実施されています。

山形市では、市内全小学校全児童を対象として公民館やコミュニティセンターを会場に全8回の放課後子ども教室「ベニっこアフタースクール」を開催する予定です。

一回目は6月10日（土）に江南公民館にて「手・指で描く紅花アート」を開催しました。アナログイラストレーターのさかいかな氏を講師に迎え、手のひらや指を使って紅花を描きました。協働活動支援員が中心になってプログラムを進めます。安全管理担当のほか、中学生や高校生、地域の方がボランティアとして参加者をサポートしました。参加した小学生は、初めて会ったグループの仲間と力を合わせて色鮮やかな紅花畑をつくりました。



完成した紅花畑は7月8日（土）、9日（日）に開催された「第38回山形紅花まつり」の会場に掲示し、訪れた多くの方にご覧いただきました。また、ベニっこアフタースクールに参加した小学生も家族と一緒に会場に訪れました。



高瀬紅花ふれあいセンター多目的ホール

～ベニっこアフタースクール～

【前期】

- 6/10 手・指で描く紅花アート
- 7/ 1 キッズ囲碁教室
- 7/28 ワロックで遊ぼう！
- 8/ 4 スクラッチAIプログラミング

後期の予定は広報やまがた、山形市HP等でお知らせします。また、学校にも案内をお送りします。

ほっとする場所、地域の自慢

～出羽小の取材～

6月14日（水）出羽小の第1回学校運営協議会を取材しました。特徴的なことが二つありました。

一つは委員の皆さんに「ほっとるうむ Dewa」を見学してもらったことです。「ほっとるうむ Dewa」とは、学校ボランティアによって、校内に子どもたちや保護者の居場所をつくる取り組みです。教室には足が向かない時も、この場所で友達や大人と関わり、安心できるというものです。大郷小に続く2校目で、どちらも須藤校長先生が立ち上げました。出羽小では職員室脇の和室で、毎週水曜日の中間休みを含む2時間開かれています。スタッフには母親7名ほどが登録し、3・4名が交代で行っています。中間休みにはたくさんのお客さんが訪れるため、学年を替えて開所することもあるようです。学校運営協議会委員の方からも、大変良い取り組みで広めてほしいとの意見もありました。

もう一つはFM山形の「キッズ放送局」で放送された6年生の生の声「町じまん」を聴き、熟議「かがやく出羽の子どもを育む」に入っていたことです。子どもたちからは「地域のあいさつ」「地域の人たちの見守り」「自然やすみやすさ」「べにばなの学習」「出羽園」などの声がありました。委員の方からは、地域の文化祭や音楽祭、コミセンとの連携、地域ボランティアに関することなどの意見が出されました。活発だった地域活動が、コロナでストップしていましたが、いよいよ大きく動き出すという感じでした。



学校運営協議会における「熟議」の重要性

年度末や年度始めの学校運営協議会で承認された学校運営の基本方針を実現するためには、熟議を重ねることによって地域学校協働を生み出し、実施につなげることが重要です。この時期の学校運営協議会では、熟議を行うことが多いようです。

熟議とは…

よりよい集団（学校）生活や人間関係を築くために、協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動を話し合いを重ねながら生み出そうというもの。

具体的には次のポイントを満たしたプロセスを指します。

- ア. 多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
- イ. 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
- ウ. 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- エ. それぞれの役割に応じた解決策が洗練され、
- オ. 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる

学校運営協議会設置の手引き（令和2年10月 文部科学省）より

熟議は学校運営協議会や地域学校協働活動が充実、発展するための重要な「鍵」になるものと考えています。